

やのなか  
矢ノ中 歩美さん

社会福祉法人斑山会 ケアハウスゼーレ  
栄養士・介護福祉士（採用／地域交流担当）

矢ノ中さんは、栄養士として日々の献立を考える傍ら、介護福祉士として職員の採用を担当するなど、多岐にわたる仕事をしています。施設の方針で複数の業務を任されていますが、矢ノ中さんの目線でアイデアを出し、積極的に行動しています。それぞれの業務での経験が、栄養士としての仕事や利用者に対するサービス向上のために役立っています。施設の雰囲気がとても明るく、職員間のコミュニケーションが活発なのは、業務の垣根を越えて様々な経験をしているからかもしれません。



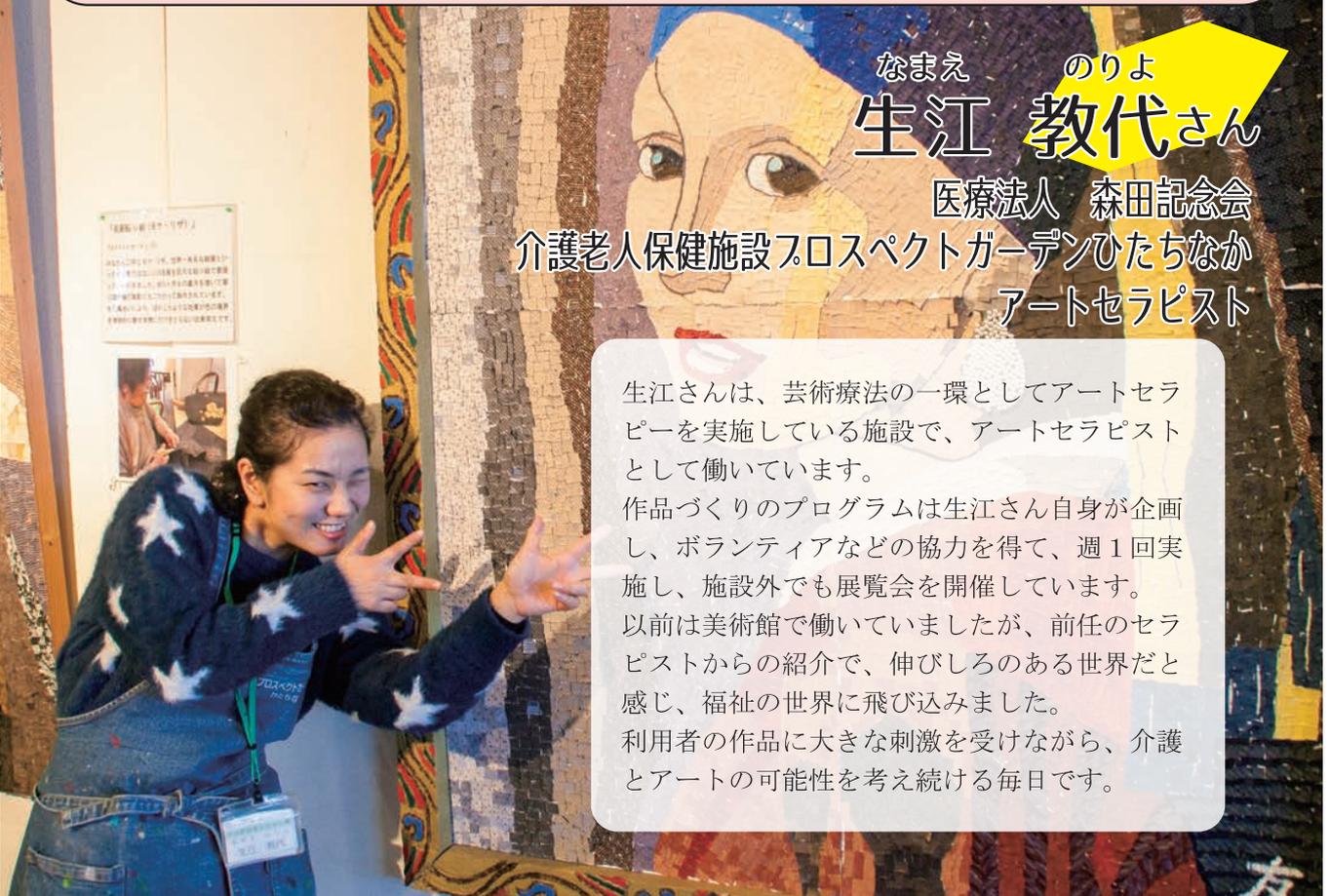
新たに任命した、ふくし”きらり人。”に仕事への思いを語ってもらいました！

なまえ のりよ  
生江 教代さん

医療法人 森田記念会  
介護老人保健施設フロスぺクトガーデンひたちなか  
アートセラピスト

生江さんは、芸術療法の一環としてアートセラピーを実施している施設で、アートセラピストとして働いています。

作品づくりのプログラムは生江さん自身が企画し、ボランティアなどの協力を得て、週1回実施し、施設外でも展覧会を開催しています。以前は美術館で働いていましたが、前任のセラピストからの紹介で、伸びしろのある世界だと感じ、福祉の世界に飛び込みました。利用者の作品に大きな刺激を受けながら、介護とアートの可能性を考え続ける毎日です。



## 介護現場との出会い

人と関わることが好きでしたが、介護施設で働くようになるとは想像していませんでした。大学で学んだことを生かし、食事の面から喜ばれるような仕事をしたいと考えていたとき、この職場に見学に来る機会がありました。施設の雰囲気がとても明るく、職員も利用者も笑顔であふれていたのがとても印象に残っています。私も人を笑顔にすることが好きですし、ぜひ、この職場で働くことを決めました。仕事を始めた当初は、栄養士として献立の作成のほか、調理や配膳を行なっていましたが、あらゆる角度から施設の業務に携わるとい



## 栄養士と介護士の二刀流

法人の方針により、介護福祉士の資格を取得し、介護の業務も兼務するようになりました。介護の業務をするようになり、利用者と話をする機会も増え、利用者の好き嫌いや嗜好をより献立に反映できるようになりました。「おいしかったよ」「次も楽しみにしているよ」という利用者からの言葉がとても励みになっています。

また、採用担当として学生さんに接するときには、「やってみなくちゃわからないよ！」と、自分の経験をふまえてお話をしています。ぜひ、この職場を見に来て欲しいですね。

## 介護とアートをつなぐ

作品を作る方は、「もっといいものを作りたい」と意欲が高まっているし、外から見ている方も、材料を提供するなどアートに関わるようになり、そこから利用者同士のコミュニケーションが広がっています。

それが、施設全体の明るさに繋がっているのではないのでしょうか。

また、「作品がないときさみしいね」と言ってくれたり、知らず知らずのうちに、アートが施設全体に浸透して来たと感じています。



## さらに良いものを作る

基本的にリハビリとして作品づくりをしていくわけですが、アートを職業としてきた分、作品のクオリティをどう保つか考えてしまい、苦しい時もあります。しかし、70代、80代の方が、とても熱い想いで作品作りをしている姿に影響を受けて、それに応えようと一生懸命取り組んでしまいます。

介護の現場は、いろいろな人が集まり、パワーのある職場だと感じているので、ぜひ、見に来て欲しいです。

どなたでもウエルカムです！

★★★ふくし”きらり人。”募集中！ ホームページで確認！★★★